

スペイン紀行

——神聖ローマ帝国 カール5世を訪ねて（2007. 5月）——

5 / 3 (木) 晴れ

自宅 6 : 0 0 発 車で成田空港付近のサンパーキングへ
サンパーキングのマイクロバスで空港へ
(サンパーキングは今回で4回目、今回は道順を間違えな
かった。高速の出口は、成田市内方面へ左、次の分かれ目は、
空港へ、即ち右折・・・)

成田空港 1 0 : 3 0 発 (定刻離陸) エールフランス (A F 2 7 9)
パリ着 1 6 : 1 0 着

席は、AB CDEF GH のABだったので、今までで一番ゆったりとして楽だったが、やはり疲れた。機中で、昨年、個人でスペイン旅行したと言う人と少しお話しをした。なかなか 面白かったとのこと。夜行列車にも乗ったとのこと。しかし英語が通じず苦労した 等々・・・。

パリ発 17:55発 AF2028 乗り換えのパリで、ピアニストの中村紘子さん
を見かけた。やはり乗り換えて、どこかへいくようだ。

バルセロナ着 19:40着

ホテル着 20:30 Ayre Hotel Gran Vía (バルセロナ エスパーニャ広場近く)

定刻にバルセロナに到着。ラッキーなことにバッグがすぐに出てきた。

空港からシャトルバス。旅行鞆をバスに乗せて、料金を払って（3.9ユーロ）、すいていたので座席に着席。旅行鞆はバスの中程にある鞆専用置き場へ。発車前に乗客（旅行客）が大勢乗ってきてバスは満席になった。後から乗ってきた英語圏の人、多分アメリカ人は、行き先を確認したり、大きなバックをバスに乗せたり、連れの人たちを気遣ったり、車内が混雑していたので鞆専用置き場におおきな鞆を置くこともままならず、立ったままで大変そうだった。

当初ホテルの場所が良く分からなかったので、夫はシャトルバスの終点のカタルーニャ広場で下車し、タクシーでホテルに行く予定でいたようだ。しかしスペイン広場の近くであることはわかっていたし、スペイン広場でバスがしばらく停まったので、私はあわてて降りた。ところが夫が荷物を取っている間に扉がしまり、そのままカタルーニャ広場まで連れて行かれそうになった。幸い親切な乗客が、ストップするよう頼んでくれたので無事夫は降りることが出来た。やれやれ…。

辺りは暗く、しかも雨が降っていた。急ぎ傘をさし、見渡した。しかし案の定ホテルがどちらか分か

らない。バス停に一人、御婦人がいたのでホテルの案内を印刷した紙を見せながら、Ayre Hotel Gran Vía
と言ってホテルの場所を聞いた。言葉が通じないのか又はホテルを知らないのか迷惑顔で、ノー！！！！
と言って知らん顔。困った。

地図を出して冷静に現在位置を確認、100m足らずでホテルを発見。四つ星ホテルなのに外観は地
味で、入り口は道路に面しているのだが、暗かったので近くに行かないと分からなかった。

フロントでホテルの予約カード（インターネット予約、カードは自宅で印刷したもの）を見せて無事
チェックイン。

2007/5/4（金）

バルセロナ観光



早朝 エスパーニャ広場にて



カタルーニャ美術館

（ホテルはエスパーニャ広場から徒歩2～3分のところ）

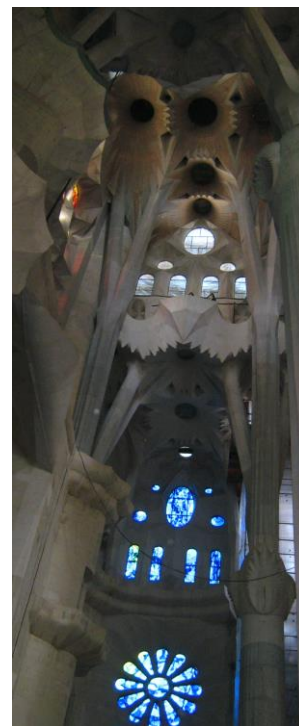
朝早くホテル近くを散歩。朝食を頼んでいなかったのので、探す、Barのみ。
Barには女性客なし。そこで朝食をとる勇気がなく、結局ホテルで朝食をとる。スペインでの初の朝
食。パン、生ハム、チーズ、卵料理等どれを食べてもとてもおいしかった。ホテルの食堂には日本人の
ツアー客が何人かいた。

エスパーニャ広場から、カタルーニャ広場まで地下鉄に乗る。切符の買い方がわからなかったが、そばにおばさんがいたので、聞くと教えてくれた。タルヘタ デイエス（10回数券カード）一枚で何人でも利用できる。2人なら、改札を2回通せばよい。カタルーニャ広場に着くと大勢並んでいたの、そこへ行くと「どこへ行くか」と言われた「サグラダ・ファミリア」というと「それはレッドラインで、あちらへ行け」と言われた。指さす方へ移動する。

乗り降り自由の観光バス レッドラインで、サグラダファミリアへ。エレベータで展望まで登った。建設中のサグラダファミリアは斬新なデザインですばらしいと思った。しかし内部はかなりの騒音で、しかもとてもホコリっぽかった。



サグラダファミリア



内部のステンドグラス



足場が縦横に組まれており，正に建設中

レッドラインに再び乗車し、グエル公園へ。バス停から、坂をかなりののぼり公園に到着、一休み。グエル公園は期待したほどではなかった。



グエル公園



グエル公園内で出会ったスペインの幼稚園児達

バルセロナ市内が一望できるというフニクラへ向かう。トラムを待っていたがなかなか来ない。すると、同じように待っていたドイツ人やイギリス人がトラムは土、日、休日のみと教えてくれた。そこへ195番のバスがやってきた（回数カードを使う）。あわてて乗り込み、終点で下車し、さらにケーブルで上る（一人2ユーロ）。教会と遊園地（チビタボ）がある。降りてきて、昼はスターバックスの隣のレストランで。2人で、20ユーロ。ブルーラインのバスが、ホテルの方までいっていることに気が付き、乗り込む。大正解。夕食は、なかなかお店がなく、やっと開いていたお店で、แฮมチーズサンドとノンアルコールビアで、6.9ユーロ。

ブルーライン、レッドライン、どちらも利用できて、19ユーロ。



教会と遊園地（チビタボ：会社の名前か???)

今回は、夫の携帯番号が、そのまま使えるというムーバを使用するが夫は自分の携帯は、日本へ置いてきたと言うので、疑問が沸き、実際に家へ電話してみる。また、家からかけてもらって、疑問は解消。

5 / 5 (土) 晴れ

バルセロナ→マドリッド

11時30分 特急列車

早朝より、目が覚める。朝食はやはりホテルで。まだ時間があるので、早朝のバルセロナを散策することにした。

8時30分ホテル出発。前日サイトシーイングバスから見た、にぎやかなショッピングストリートに行ってみる。もちろん早朝のことで、シャッターは閉まっていたが、土曜なので歩行者天国になるらしく、支度が始まっていた。戻ってきて、スペイン広場のカタルーニャ美術館に行ってみる。眺めはすばらしい。中へは10時からなのであきらめる。すぐ帰るつもりでいたが、夫がモンジュイックの丘へ行きたいということで、バスを待つ。50番はなかなか来ない。20分ぐらい待ってあきらめかけていた頃やっと来た。だがのんびりしている時間はもうなくなっていたので、そのまま終点で、折り返しになるのを待とうとしたら「降りろ」と厳しくいわれ、仕方なく降りる。「帰りは向こう側」と言われ、またまた、来るのを待つが、行ったばかりでなかなか来ない。いらいらし出した頃、やっと来たと思ったら、さっきの運転手さんだった。スペイン村とスペイン広場と間違えられ、「ここだ」といわれ、前者で降ろされそうになる。やれやれ。やっと、ホテルにもどり、チェックアウト。フロントで、「タクシーは」と言われ、頼む。ところが、この運転手さんには少し乗っただけで12ユーロもとられた。





モンジュイックの丘 サグラダファミリアが見える



バスを待つ、なかなか来ない。時刻表はない
バルセロナオリンピックの会場近くなので、こんな綺麗なバス停

バルセロナの駅では、電車はどのホームから出るかわからないでいた。11時半はまだ電光掲示板に案内されていない。Informationがあつたので、聞くと4番線だと教えられると同時に案内板に出た。階段を重いスーツケースを持って、やっとのことで降りたと思ったら、向こうにエレベーターがあつた。ホームには、たくさんの人が並んでいる。ホームで、切符のチェックをするからだ。電車は時刻通り発車。すぐに飲み物とスナック、新聞のサービス有り。一時間ほど走ったら、車両基地のようなところで、停まってしまった。夫曰く、「電圧が切り替わるため電気機関車を変えたのではないか。」それからは順調に走る。海が見える。地中海だ。停まる駅の名はかろうじて聞き取れる。タラゴナから進路を西に変えてイベリア半島の内陸に入る。車窓は赤い土、低い木のみので大地が続く。



バルセロナからマドリッドを約5時間で結ぶ特急
アルタリア (Altaria)



ワイン付きの昼食が出ます



スペインの平原を疾走するアルタリア 単調な風景が続く

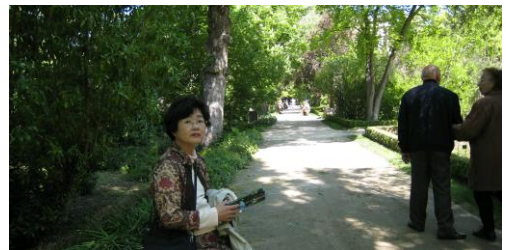
食事付きのはずなのだが、なかなか出てこない。2時半頃、サラゴサを過ぎてからやっと来る。機内

食のようだが、パスタがおいしい。これでプラス千円は安い。定刻より早く到着。びっくり。なんでも遅れると思っていたからだ。

Mのマークの地下鉄を捜し、少し歩く。地下鉄の回数券、今度はすぐ買えた。ブルーの1番線で、SOLまで、乗り換えて黄色のMONCLOU行きでエスパニア広場下車（ここもバルセロナと同じ名前）。地上へ出ると冷たい風が吹いていた。なかなか綺麗なところ。しかしホテルのあるところは裏通りで少し気味が悪い。中国人街のようだ。坂を上り、police を過ぎるとホテルはあった。一休みして、出かける。さらに坂を上ると道がいろいろ交差していて、迷いそうになるが、デパートをみつけ、地下で食料品を購入。ここでは、ばら売りの果物などは係りのおじさんに言って入れて貰う。ドイツのようなつもりで、自分で取って入れようとしたら、怒られた。レジ袋はただ。帰るころ、人通りはさらに激しくなっていた。土曜の夜なのだ。

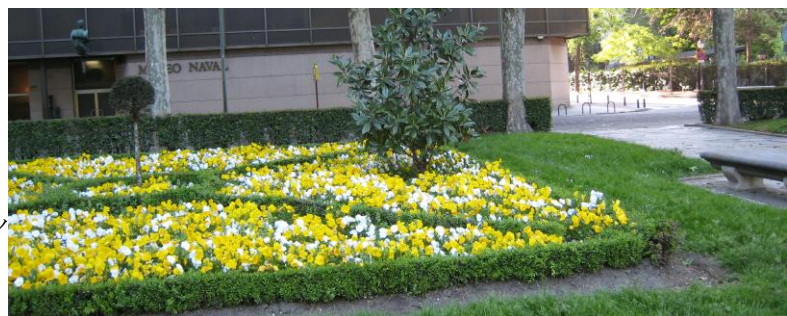
5/6（日） 快晴

朝食は7時半なので、少し時間があり、エスパニア広場まで散歩。今日は プラド美術館をめざす。8時半出発。坂の上の駅サント・ドミンゴよりバンコ・デ・エスパニアまで、さらに駅から少し歩く。とても綺麗なところ。もうすでに並んでいたの、時間を確認したら、9時開館だった。しまった。もっと早く行けたのに。行列が2つあるのでどちらかわからず、日本人ツアーの人がいたので聞く。もう一つは特設展。今日は日曜なので、入館料はただ。ゴヤの2つのマハは30年前、京都に来たときに見に行ったが、それを今日は本場でみた。あのときより絵が小さく思われた。その他素晴らしい作品が多い。隣の王立植物園（2ユーロ）はとても綺麗なところ。



レティーロ公園で一休み

シャクナゲがきれいに咲いていた



昼は近くのレストランでパエリア、8.75ユーロ（一人）ピカソのゲルニカが見たくてソフィア王妃芸術センターをめざす。日曜は2時半までとあるが、時刻は2時10分。少しのんびりしすぎた。入ることは出来たが、どこにあるかわからず、教えて貰い急ぐ、ところが、近くまでいくともう駄目だといわれた。2時20分。結局なにも見ずに帰る。「入れたのだから、見せてよ。ほんとにもう。」ここは、王立つまり公営なのだ。役所と同じ。メトロのアトーチャ駅に近いので乗ろうとするのだが、入口が見つからず、うろうろする。なぜ見つからなかったのか、すぐそばにあった入口は、工事のなかにかで閉まっていたからだ。近くを掃除しているおじさんに教えてもらい、やっとみつけることが出来た。ソルで降り、マヨール広場をめざす。ものすごくにぎやかな広場だ。一度ホテルに戻り、再び出かける。地下鉄 サント・ドミンゴ方面から、王宮をめざす。緑多く、素晴らしい公園だ。日光浴をしたり、みな日曜の午後に満喫している。

隣接する大きな公園は扉が閉まっていた。その横を通ってプリンシペ・ピオ駅まで歩く。ラ・セプルヴェダ社のバス停をさがすためだ。大きなホテル「フロリダ・ノルテ」の隣、地下に降りていくと乗り場があった。

今日の CNN は、フランス大統領がサルコジになったとそればかり。



マヨール広場



スペイン王宮と近くでくつろいでいる人たち 直射日光を浴びると暑いくらい
ただし日陰は涼しく気持ちが良い

5 / 7 (月)

マドリッド→セゴビア

バス

8時過ぎホテルをでて、地下鉄のエスパーニャ広場まで歩く。そこでタクシーを拾い、昨日調べておいたバス停まで乗る。今度は良心的な運転手さんだ。チップを入れて、6ユーロ位。切符を買ってすぐ、9時発。セゴビアまで1時間半で5. 84ユーロ。当初プリンシペ・ピオ駅まで、一つ地下鉄に乗るつもりでいたが、駅からバス停まで、少し歩くので、スーツケースを持って歩くのも大変と判断したため、タクシーに変更した。

並んでいる人に「セゴビア？」と尋ねると“May be”と言う。[エッ]と思ったら、ドイツ人だった。そばの人が確認してくれた。荷物は自分で、バスの下部にあるトランクに入れる。長距離のバスの発着所なのに案内はない。バスの前に書いてある行く先で確認するしかない。バスは快適でハイウエーを突っ走る。1時間15分ほどで、セゴビア到着。

少し早かったが、荷物を預けられそうな所もなく、ひとまず、ホテルへタクシーで向かう。ここは、パラドール。とても綺麗なところ。チェックインはできた。



古代ローマ時代の水道橋



遠くの丘の上にパラドールが見える



荷物を置いて、また出かける。町へ行くには、タクシーを呼ぶしかないとのこと。ここで、またケチケチ精神が頭をもたげ、タクシーが走っていそうな所まで歩くことにしたが、これがまた本当になにもないすごいところ。10分ぐらい歩いたところで、後ろから来たタクシーに呼び止められた。ラッキー。カテドラルまで乗る。カテドラルはすばらしい。(4ユーロ) 水道橋まで下り(この間のお店はとてもおしゃれ)、**Information** で、ツーリストバスを聞いてみる。4ユーロで町の外側を1周する。外から見るアルカサルはとてもすばらしい。1時間ほどで周る。アルカサルの中に入る。タイルの壁、天井など見ごたえがある。昼は近くのレストランで、子豚の丸焼きを食べる。すごく量が多い。地球の歩き方に載っていたところ。帰りは結局またタクシーを求めて、水道橋まで行く。タクシーでホテルへ。ホテルの温水プールに入ってみる。(帽子が必要) 少し水が冷たかった。



左側に水道橋が見える (パラドールより)



セゴビアのカテドラル (カテドラルの貴婦人)



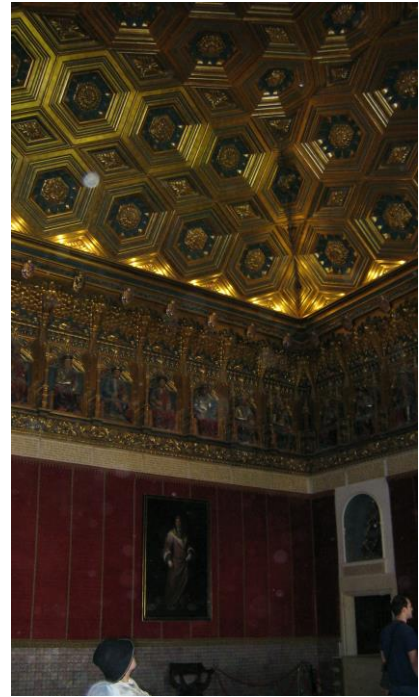
郊外に建つ教会 (テンプル騎士団が建てた)



サン・エスティバン教会 (塔の女王)



セゴビアのアルカサル（ディズニー映画の白雪姫のお城のモデルになったとか）



アルカサルの中

5 / 8 (火)

セゴビア → マドリッド
バス

7時半 朝食。パラドールの食事はとても豪華。

ホテルからタクシーでバス乗り場へ。帰りは途中まで少し道が違うような気がした。

プリンシペ・ピオ → ツリブナル → アトーチャ・ランフェ

10番 乗り換え 1番



マドリッドの地下鉄

ここで、女の数人（赤ちゃんを抱いた人2人、これもグループと思われる）に囲まれ、財布をすられそうになる。脱いだジャケットで、手を隠しバッグのそばに近づくのだ。その2人に気を取られている間に取ろうとしたと思われる。あわててバッグをひっぱったがチャックが開いていた。私をあきらめ

ると夫に近づいていったので、合図を送って、事なきを得た。夫も鞆をひっぱられそうになり、気が付いたらしい。スーツケースを持っていたため、注意力が少し散漫になっている。それと明らかに旅行者と分かるわけだから。地下鉄の乗り換えがエスカレーターでは大変なのだが、エレベーターが見つからない。

マドリッド→トレド

AVE（スペイン国鉄）

アトーチャ・ランフェで、AVE の切符を買おうとするが、順番待ちが大変なので、急遽バスに変える。南バスターミナルまでタクシー。切符を買って、乗り場へ降りるがホームは沢山あって、わかりにくい。近くのお兄さんが「テレビ画面を見て」と教えてくれた。61番乗り場。少し離れた所にあり、というか入口に一番近かった。やっとのことで、乗り込むが、今度は座席指定だと言われる。切符を見るととってもレシートのようなものだが、たしかに番号が書いてある。その番号の所に言ってみるともう先客がいた。改めて切符をみると夫が出したのは、セゴビア→マドリッドの切符だった。トレド行きの切符を確認してやっとすわることができた。間違えた席の人ごめんなさい。バスはきわめて快適。バス停から、ホテルへはタクシー。



バスの中から まもなくトレド到着



トレドのホテル（ユーロスター）

ロビーで明日のマドリッド行きの切符について尋ねる。AVEの方がいいといわれる。早朝なので、10日の朝食をキャンセルする。さらに切符の買える旅行社を教えて貰う。結構歩いて、やっと見つけたが、なんと「シエスタ」で、4時半まで休み。仕方なくすぐそばのレストランでコーヒースタート。夫はアイスクリームも頼んだ。ウェイトレスは知り合いの女の子に似た美人だったが、英語が通じない。アイスクリームが通じない？少し英語の分かる人が通訳してくれたのだが、出てきたのはミルクコーヒースタート。「まあかわいいから OK」（これは夫の言葉）トイレ、トワレットもなかなか通じません。

やっと4時半になったので、行ってみたけどまだ開いてない。すぐ前の公園で、さらに30分、時間をつぶし、やっと買うことができた。

そこで、ソコトベール広場までのバスを教えて貰う。3番、41番で0.85ユーロ。ソコトレインの切符は、infoで、買う。4ユーロ。6時発で約1時間で一周。3両連結のおんぼろ車。まだまだ陽は高く暑い。日本の2時か3時位の感覚だ。広場近くの店でワイン、サンド、ビールを購入。帰りは5番

のバスで、ホテル近くまで行き、そこから、5分ほど歩く。その途中で、果物屋さんを見つけ、（よろず屋さん、古いなあ、何でも屋さんという感じ）オレンジ、洋なし、すもも？を買う。（安い）ただいま気温26度。日没9時15分。

スペインは野菜、果物は安い。また、バスなどの運賃も安いと思う。



後ろに見えるのが観光用蒸気機関車？（バス）のソコトレイン



ソコトレインから見たトレドの旧市街 右にアルカサル、中央の尖塔がカテドラル

5／9（水）晴れ

トレド市内観光

ホテルの隣は大学のように、学生がいっぱいだった。煙草を吸う人が多い。41番のバスに乗る。朝の渋滞にはまってしまう。どうやら、学校へ送る（小学校？）、親の車のような。その交差点を過ぎると道路はすいて来た。ソコトバール広場で降りる。カテドラルへ行こうとするが、なかなか見つからない。本によると、道に迷ったら、カテドラルの塔をめざせ、とあるが塔など全然見えない。うろうろしているとアルカサルに着いたので入ろうとするが、閉館中。なんとか、カテドラルにたどり着いた（6ユーロ）。スペインカトリックの総本山はエルグレコの絵などもあり、素晴らしい。



アルカサル（修理中）



カテドラル

広場に戻り、コーヒーブレイク。太陽の門、ピザクラ門まで歩き、さらに5番のバスで、ホテルへ戻る。12時半かなり暑くなってきた。3時半ごろまた出かける。41番で広場へ、さらにエルグレコの家へ行くが閉まっていた。サンタフェから来たと言うアメリカンに出会う。彼らも閉まっていて、残念そうだった。シナゴグを見て、サンマルティン橋に行く。途中で、日本人の若者2人組に出会う。バルセロナから、夜行でグラナダに入ったとのこと。日本人同士情報交換するのがおもしろい。バス71番で広場に戻り、41番にのろうとしたが、停まってくれない。5番に乗って帰った。

カール5世

ドンキホーテ
サンチョパンサ



おみやげやさんの入り口



ピザクラ門の前

イザベルとフェルナンド



カテドラルの中

トレドで見つけたスペインの歴史に登場する主役達



黄金のキリスト像



カテドラルのステンドグラス



トレド司教

エルコロツソ、ユーロスターは、同じホテルチェーンで、オレンジ色の枕が別についているが、これが、カバーを替えてなくて、臭かった。



シナゴーク



ピザクラ門



アルカサルの展望台からみたトレド旧市街



タホ川にかかる橋から（後ろはトレド旧市街）



太陽の門

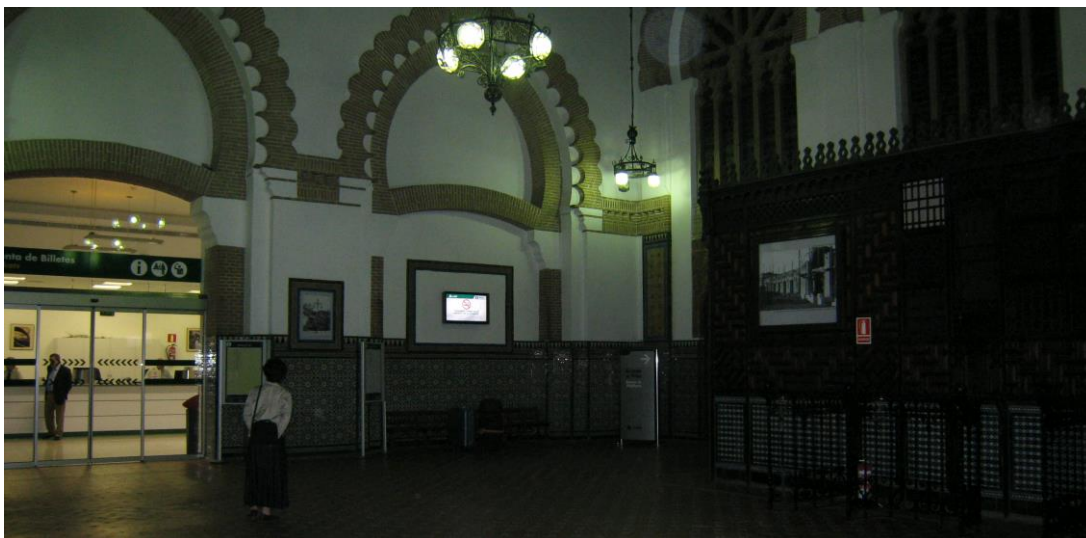
5 / 10 (木)

トレド→マドリッド

6時55分 AVE

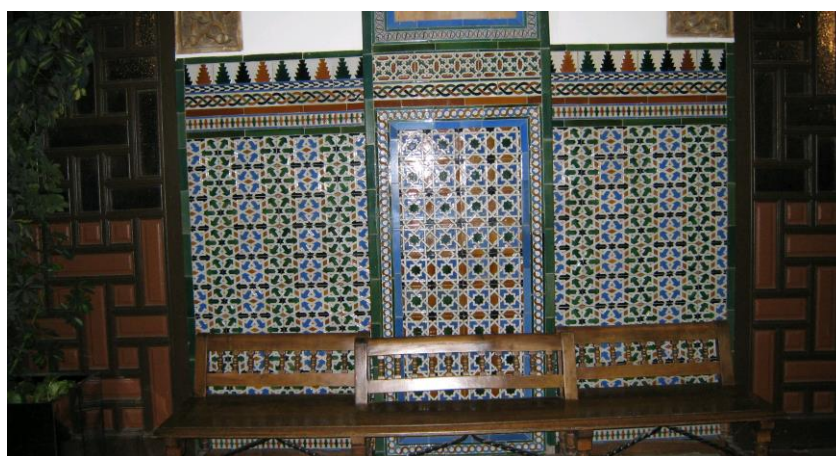
6時出発。タクシーを呼んで貰う。10分ぐらいで到着。まだ真っ暗。しかも肌寒い。しばらく待つ。時間にならないとホームには行けない。荷物がチェック有って、定刻発車。7時25分着。5分早い。なんでも多めに言うておくみたい。遅れるより、早いほうが感じはいいけど。それをねらっているのかな。温室のようなアトーチャ駅を出て、（これは、先日は見逃した所）タクシー乗り場へ。途中渋滞があり、結構遠く感じた。8時半到着。搭乗まで時間がある。持ってきたお茶入りのペットボトルを没収される（失敗）1時間ほどで、グラナダに到着。ほかに何もない空港で、驚いた。タラップを降り、歩いてターミナルまで行く。3ユーロで、市内中心部までバスが出ているので、乗り込む。カテドラルで降りる。みんなが降りたからだが、そこからタクシーで5分ぐらいで、ホテル ナサリエス到着。ここはバスローブが付いていた。

ほせるものもあったけれど、ヒーターが入っていたかどうかよくわからない。シャワーとバスタブが別でまたトイレはすりガラスの引き戸が付いている。バスルームはなかなか広い。スパは別料金でしかも高いのでやめる。アルハンブラの予約を聞くが、ホテルでは出来ないとのこと。ただ45ユーロで、ガイド付きのツアーがホテルから出るという。高いので検討することにして、とりあえず町にでてみることにする。





朝一番の AVE でトレドからマドリッドへ



モザイク状のタイル（駅の待合室）

6 番のバス（1 ユーロ）これも本より高い。（本は0，9 ユーロ。）カテドラルで降り、ヌエバ広場まで歩く。そこにあった、バスの切符売り場のボックスで、**Information** の場所を教えて貰う。アルハンブラの切符が、王室礼拝堂で買えることを知る。ここなら、カテドラルの隣で、わざわざ、宮殿まで行く必要がないので、行くことにする。ただし「シエスタ」なので、開くのは4時からだ。昼は近くのレストランでパスタ。王室礼拝堂では、少し並んだが、買えた。明日の8時半の予約。ここは、おじさんが

一人で、礼拝堂に入る人とアルハンブラの予約切符を買う人を交互に対応している。おじさんの能力もすごいと思ったが、ほかの人はなにをしているのか気になった。おじさんだけが忙しそうだったからだ。また、なぜここで、アルハンブラの予約が出来るのかよくわからない。「ボノ ツウリストコ」と言うのだが、これはすごく便利なチケットだ。これで観光バスも路線バスも乗れるのだから。カテドラルを見学して、ヌエバ広場に戻り、小型の赤い観光バス（これは、狭い道路を通るためのようだ）に乗る。窓が小さく、ものすごく暑いが冷房の設備などはない。戻ってきて大型バスに乗る。これはアルハンブラの駐車場の近くを通った。さらにこれは、ホテルの近くも通ったので、あわてて降りる。近くのショッピングセンターで買い物。ワイン、ビール、果物。サラダはなかった。今までのホテルでは、サラダはあまり種類がない。トマトとレタスぐらいだ。

を待つが、なかなか来ない。そこに3人連れの日本人が通りかかり、乗り場がかわったことを教えて貰う。日本人同士有り難い。そこへ行くと今度は32番しか来ない。本で確認し、32番でいいと気づき乗り込む。満員だ。バスはぐるとまわり、裁きの門を通り、さっき乗った所に来たので降りた。今日は、正装の人をよく見かけた。子供も白いドレスなどを着ている。教会の帰りと思われる。

今日は少し雲があり、涼しい。日曜で普通のお店は閉まっている。

もちろんホテルの近くのショッピングセンターも。11時15分頃、ポンポン音がするので、外をみたら、マンションの向こうに花火があがっていた。夜中ですよ。

5 / 1 1 (金)

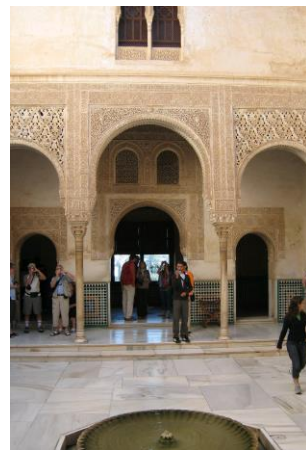
アルハンブラ観光

朝食は野菜が少し多い。なかなか良い食事。

8時出発。ところがなかなかタクシーがつかまらないのであせる。呼んでもらえばよかったと後悔するが今更仕方がない。少し歩いてやっとなつかまえるが今度は狭い道で渋滞にはまってしまう。やっとなつかまえたのが8時40分だったが入れてもらえた。本によれば遅刻すると入れてもらえないなんて書いてあったから、もう気が気ではなかった。中に入るととても広くて、王宮にたどりつくのも大変。ナサリエスの王宮入口で順番を少し待つ。さらにヘネラリーフェまで、たくさん歩く。途中パラドールに寄ってみる。ティーブレイクをするつもりだったが、トイレを拝借して帰ることにした。



アラヤーネスの中庭とコマレスの塔
(上空にツバメが飛んでいる)



メスアールの中庭：コマレスのファサード



神聖ローマ帝国皇帝 カール5世の宮殿
(カルロス1世)

アラヤーネス、メスアールの中庭、細かい細工の美しさに驚かせる。一方カール5世の宮殿は、大きさは宮殿内随一を誇るが、モロー人（ムーア人）の建てた緑と噴泉を配し、美しいアイボリー調の微細装飾を随所に施した宮殿本来の建造物に比べると、見劣りすると言わざるをえない。



アルバイシンを望む展望台 細かい細工がものすごい



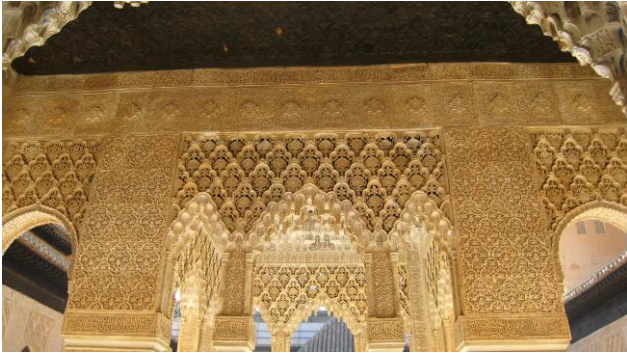
サンタマリアデ・ラ・アルハンブラ教会



貴婦人の塔 パルタンの庭



アルハンブラ宮殿入り口からカール5世宮殿に向かう道



二姉妹の間



王達の間に通じる回廊



アベンセラーへの間の丸屋根(鍾乳石飾り)



ライオンの中庭の上を飛ぶツバメ
ライオンの中庭の噴水は修理中で見る事が出来なかった。



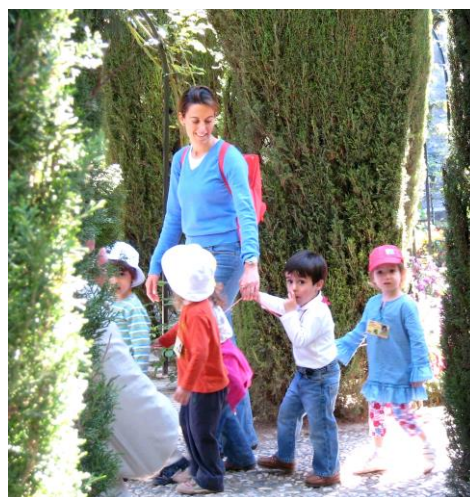
アルカサバからカール5世宮殿、コマレスの塔を望む



宮殿内を散歩中の保育園児，迷子にならないよう，噴水や池に落ちないようにロープを握っている



ヘネラリーフェ離宮 アーチの柱廊



ヘネラリーフェ離宮の北の分館



ヘネラリーフェ離宮



裁きの門より出て、ゴメレスの坂を一気に下り、ヌエバ広場まで歩く。思ったより近かった。この急坂をスーツケースを引っ張って、上ってくる女性数人の旅行者に遭遇。パラドールに泊まるのだろうか。それにしてもどこから歩いて来たのか、すごい体力。



宮殿とパラドールの間にある庭園，緑と花が多い



アルハンブラ宮殿の入り口 裁きの門

ワシントン・アーヴィング著のアルハンブラ物語に出てくる門。アーヴィングはヌエバ広場から馬に乗って、ゴメレスの急坂を登り裁きの門に到着した、と書いてある。

Info ではバスツアーの情報は教えてもらえず、travel agency に聞くが、セビリア、コルドバツアーはないとのこと。しばらく歩いていると、偶然にも日本語情報センターを見つける。(地球の歩き方にも載っている) そこで、フラメンコとアルハンブラの夜景ツアーを紹介して貰う。 日没9時7分。午後9時50分、迎いのマイクロバスに乗り、まずアルハンブラの夜景のみえるサン・ニコラス展望台へ行く。そのバスは、日本人は我々のみ。韓国の夫婦(50台前半かとおもわれる)といっしょになる。婦人は大学で、フランス語を教えているとか。もちろん英語も堪能。彼女たちより、上の世代は日本語が出来、また、子供の世代は日本語ブームで、わかる人も多いそうだ。

その後サクロモンテでフラメンコを鑑賞する。若い人から、年輩の踊り手まで、迫力満点だった。と

ころで、ここではカスタネットを使わない。タップのように靴の音がすごい。帰ってきたのは25時だった。



アルハンブラ宮殿 夜景



終盤観客の女性が飛び入りでフラメンコの踊りに加わり、大いに盛り上がった
(飛び入りでフラメンコを踊ったのは写真左下のブロンドの髪、白っぽい服装の女性)

5 / 1 2 (土)

グラナダ→セビリア→グラナダ

バス バス

10時発のセビリア行きの長距離バスに乗るつもりでバス停に行く。10番のバスを待つがなかなか来ない。やっと来たけれど、今度は途中の駅で、たくさん乗せて行くので着いたのが10分前だった。切符売り場も並んでいる。番が来て買おうとするが、英語が通じない。近くの若者が“Can you speak English?”と

英語―スペイン語の通訳をしてくれて、やっと買うことが出来た。往復で、1人32ユーロ。

後ろの人達ごめんなさい。待たせてしまって。ここで、トイレを捜したが見つからなかった。ところが今度は、乗り場がわからない。また彼に教えてもらった。「テレビの画面を見ろ」ということだったがよくわからない。バスの前に書いてあるセビリア行きの文字を見つけようやく乗車。グラナダを出ると、オリーブの畑、小麦畑、牧場となだらかな平原が広がるこのあたりは不毛の地ではなさそうだ。3時間とあったが2時間半で到着。

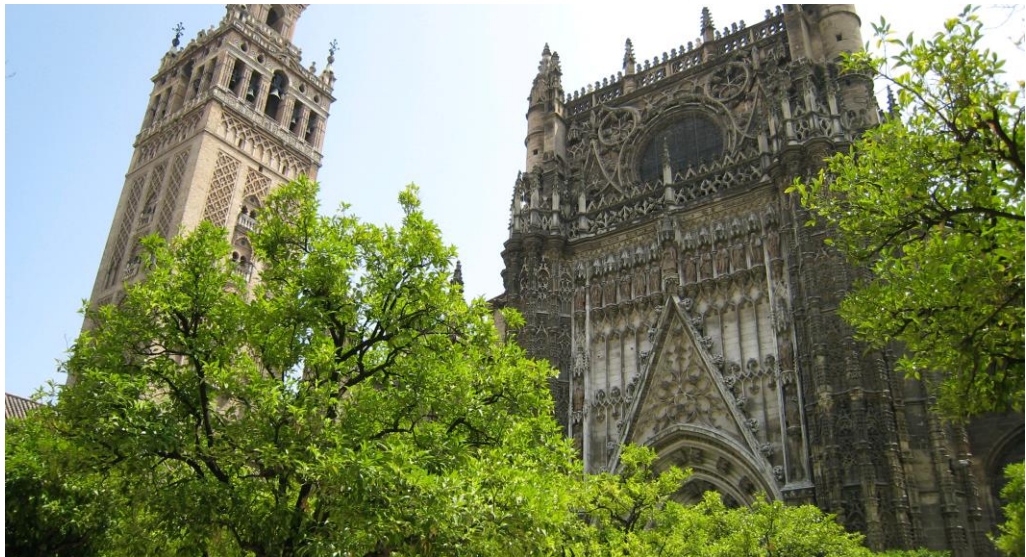


セビリア市街 ジャカランダ（紫桜）の街路樹が満開
（幹は桜に、花は藤の花に似ている）



観光用馬車

ここで、トイレにはいるが、紙がない。行きの時は外にあるのを持って入ったが、帰りはそれもなく
なっていた。また便座が無くて困った。スペインの御婦人、どうやって用を足すのかしら。ドイツのト
イレで、チップを払い、また掃除の人がそこにいるのも気の毒のような気がしたが、その分とてもきれ
いだったので、どちらが、よいのか考えさせられてしまった。まあ掃除をきちんとしてくれていれば問
題ないわけだが。最近の日本はかなりよくなっていると思う。



セビリヤのカテドラル (左がヒラルダの塔)



カテドラルの中にあるコロンブスのお墓
(コロンブスの棺を4人の王様が担いでいる)
地図をみてもカテドラルの位置がよくわからず、近くの人に教えて貰う。

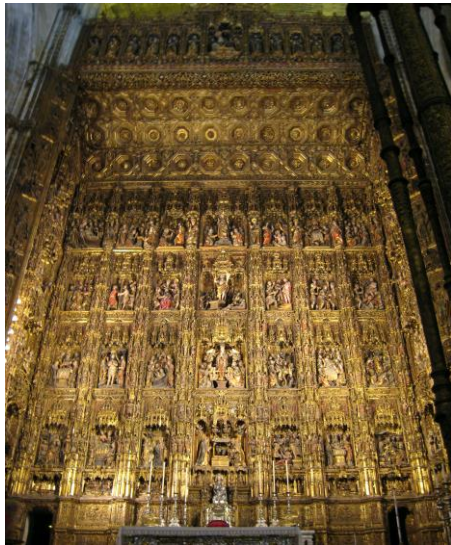


カテドラルのステンドグラス

時間がないのでアルカサルは省略して、カテドラルだけにします。セビリヤのカテドラルは、ローマのヴァチカン、ロンドンのセントポール大聖堂に次ぐ世界第3位の大きさだそう。聖堂の中はとても素晴らしい。ここには日本人のツアー客もいた。

ヒラルダの塔へは階段ではなく、螺旋状の急坂のスロープを歩いて登る。昔イスラム教の祈りの時を告げる係りの人が、馬で登れるように作ったそう。アルハンブラ物語にヒラルダの塔が出てくる。モロ人の伝説によれば塔のてっぺんには大変物知りのフクロウが居て、色々な悩みの相談に応じてくれるとか。フクロウは居なかったが、展望台でイスラム系のカップル、年齢は多分16～17歳くらいと出会う。女性はアラビアンナイトに出てきそうな人でとても可愛い。男性は日本語を勉強中で、日本が大好きと言っていた。「ごきげんいかがですか」に対する返事は日本語でなんと言うのか、と聞かれ困った。夫は「so so まあまあですね」と教えたけど、これでよいのかなあ？あらためて考えてみると日本人は、「ごきげんいかがですか」という挨拶はあまりしないので、この質問の答えは難しい。

昼はピザとサラダとお水で20ユーロ。帰りはグアダルキビル川を望みながら歩く。アイスクリームを食べている人がいるので、ショップを探しながら歩いた。やっと見つける。アイスクリーム、ジェラートは通じない、「エラート」というと通じた。小：2.2ユーロ、大：2.8ユーロは高いかもしれない。今度はバスステーションの位置が分からない。往復の切符を買ってあり、時間が決まっていたので少々あせる。やっと見つけ無事乗車。



カテドラル主祭壇



銀で作られた何か？

主祭壇にはメキシコとペルーから運んだ2.5トンの黄金が使用されているそう。美しい彫刻が印象に残る。



ヒラルダの塔から眺めたセビリアの町 グアダルキビル川が見える

スペインに来て感じたこと。スペイン人はサービス精神にかける。こんなに観光の人が来ているのに、道案内の看板とか、表示とかが少ない気がする。建物の中に入っても同じ。電車のホームなども。

表通りは割合きれいなのだが、中へ入るとあまりきれいではない。道路は道幅が広く、両端は駐車OK となっている。所々み大きなゴミ箱がおいてあり、収集車が箱ごとクレーンで持ち上げ車で運ぶ方式になっている。



キリストを抱くマリア



ヒラルダの塔からの眺め、下はカテドラル（大聖堂）



セビリア グアダルキビル川沿いの黄金の塔
(夕日を浴びると黄金に輝くという)

今日は暑かった。日没午後9時8分

5 / 13 (日)

再び、グラナダ観光

バス6番でカテドラルまで。ヌエバ広場まで歩き、34番でアルバイシンへ行く。ここは道幅がせまいので、小型のバスになる。バスの大きさを使い分けているのだ。絶景ポイントで降りたつもだったが、違っていた。早く降りすぎたのだ。ブツブツ夫に文句を言う。しばらく次のバスを待つがなかなか来ないので、歩くことにした。(歩くのが嫌いなのは夫です) 坂を上ればなんとかなると思い、上っていくと前に歩く人がいて、どうやら、目的は同じようなので後についていったら、正解。ニコラス教会からの絶景ポイントに出た。おととい、夜景を眺めたところでもある。コーヒーブレイク。細い路地よりバス停まで歩いて下る。途中、お店もある。バスでカテドラルへ戻る。その横の路地がお土産物やさん通りだった。いっぱいあって、とても楽しかった。ホテルへ帰る前にもういちど、アルハンブラのそばまで、行って帰ることにして、ヌエバ広場で30番のバスを待つが、なかなか来ない。そこに3人連れの日本人が通りかかり、乗り場がかわったことを教えて貰う。日本人同士有り難い。そこへ行くと今度は32番しか来ない。本で確認し、32番でいいと気づき乗り込む。満員だ。バスはぐるりとまわり、裁きの門を通り、さっき乗った所に来たので降りた。今日は日曜日、正装の人をよく見かけた。子供も白いドレスなどを着ている。教会の帰りと思われる。

今日は少し雲があり、涼しい。日曜日で普通のお店は閉まっている。もちろんホテルの近くのショッピングセンターも例外ではない。11時15分頃、ポンポン音がするので、外をみたら、マンションの向こうに花火があがっていた。夜中ですよ。



バスを待つ



アルハンブラ宮殿 (アルバイシンのバス停付近から)

5 / 14 (月) 曇り ～ 晴れ

グラナダ→ロンダ

AVE 7時15分

朝食抜き、6時出発。タクシーを呼んでもらい、グラナダ駅へ。6時50分発 AVE のマドリッド行きの人が並んでいる。まだ、切符売り場は閉まっている。6時半やっと切符売り場が開いた。カフェがあるが、甘いパン、ドーナツ、大きなクワッサン等なのでやめる。7時15分発車。電車は空いている。麦畑、オリーブ、牧草、広大な大地、向こうに山。延々と続く。



オリーブ畑を走る、山には木が生えていない

10時05分ロンダ到着。タクシー乗り場を探すがない。タクシーは電話で呼び出す。駅のカフェで夫が電話番号を聞いてくる。信じられますか？電車の駅にタクシーがないなんて。電話をかけるとタクシーはすぐ来た。携帯電話が役にたった。パラドールには5分ぐらいで到着する。割合近く8.44ユーロ。

昼はガイドブックに出ているお店で、オックスティルのコース、私はカリフラワーとかぼちゃのスープ。パンはまずい。量が多いので、この位で丁度良かった。隣の席のフィリッピーナとアメリカンが我々を見て「私たちは愛知万博に行ったことがある」といっていた。しきりに「名古屋は良かった、すばらしかった！」と言っている。これに対し、夫は名古屋とゴヤを聞き違い、プラド美術館のゴヤの絵はすばらしかったと答えていた。話がかみ合っていない。

4時ごろまた出かける。ビエホ橋に行ってみる。明日乗るバス停を確認する。「切符は当日でないと買えない」と言う。明日10時のバスなら、9時半販売開始ということだ。



ロンダ駅に到着



断崖の上に建つロンダのパラドール



ロンダの町並み（アンダルシアに多い白壁の家の集落）



ロンダの闘牛場 近くのレストラン、ペドロ・ロメロ（オックステイルとスープ）



闘牛場には牛はいなかった。乗馬の練習中
（闘牛の入場行進時に使う馬の訓練らしい）



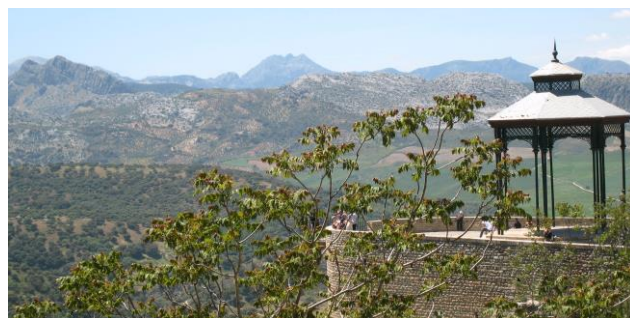
闘牛博物館

5 / 15 （火）

ロンダ→マルベリア

バス

早朝散歩。少し肌寒い。朝食8時。少し野菜が少ない。ドレッシングはなにをかけていいかわからない。日本で見るようなのが、見あたらない。



ロンダは山の上、朝晩は相当涼しい

9時15分ホテル出発。タクシーを呼んでもらい、バス停まで、5、5ユーロ。9時半窓が開いて切符を買う。またまた、どこへ並べばよいかわからない。マルベリア行きにのるのだが。我々の前に買ったスペイン人と思われる人もわからないようで、あの辺という感じなのだ。しばらくして、その人が「ここだ」と教えてくれる。バスが来た。乗っていた人は全員降りた。荷物を入りたいのでトランクを開けて欲しいのに開けてくれない。10時過ぎる。やっと改札になったが、いったん降りた乗り継ぎの人を乗せてから、我々の番となるようで、まだトランクは開けてくれない。何人か乗ってから、やっと開けてくれた。荷物を入れてやっと乗車となった。今回は指定席ではなかった。後ろの方にすわった。朝日が差し込んで暑いがエアコンがきかない。

長距離バスに乗って感じたこと。乗車を運転手さんのみにまかせて案内版やアナウンスもないので、初めての乗客はうろうろするばかり。我々と同じような旅行者、といってもスペイン国内の人もしくは欧州系の人もちこち聞いてうろうろしていた。電車もだいたい同じだ。バス停の名を行ってくれないので、うっかり寝ることも出来ない。

ロンダの山を下りてきて、右へ曲がり、町へ入ってきたところでバスは停まった。沢山の人が降りた。夫は、「マルベリアは方向が逆で、降りるしかない」言うので、あわてて降りた。あとで確かめたが、やはりマルベリアは方向が逆なのだ。ではなぜ、マルベリア行きなのかよくわからない。いったん反対へ行って戻ってマルベリアに行くとは考えられない。おそらくここで降りずにもっと乗っていれば戻ってきて、そちらへ行ったと思われる。仕方なくあとはタクシーでホテルへ行くことになるのだが、今度はタクシーがなかなかつかまらないので、反対側の車線に行ってみるが、これもだめ。ゆっくりブレーキでもしてと思って、お店の人に聞いてみると、タクシー乗り場はさっき降りたバス停と同じだと教えてくれた。やっとタクシーに乗り、ホテル（グヴァダルピン・バヌス）に着いた。



マルベリアのホテルのテラスからの眺め、プールの向こうは地中海

フロントで、「部屋を2つ予約している」といわれ、またまたびっくり。これは、「インターネットで予約した際に予約完了のメッセージが来なかったため、もういちどやり直したため起きたためと考えられる」ブッキングドットコムに電話してくれて、OK。ところが、今度は「チェックインはまだ」といわれる。「15時半まで待て」とのこと。荷物を預け、グヴァダルピン・スパへ行ってみることにした。

我々の宿泊したホテルのグヴァダルピンは2つのホテルからなっている。グヴァダルピン・スパは姉妹店でマルベリャの旧市街中心付近にあり、スパとブランド店の入ったホテル。一方、私たちが宿泊したグヴァダルピン・バヌスのは海岸に面しており、屋外温水プールがあるのが特徴。両ホテルは1時間一本のシャトルバスで結ばれており、所要時間は約15分。

グヴァダルピン・スパホテルの近くにはスーパーが2つある。一方で少し買い物をして、近くのレストランで、サラダ、なすのグラタン、パン、コーヒーで昼食。

そして、その後大きなスーパーの Sol に入った。さばやいわしなど見慣れた魚もある。もう一つのスーパーの袋を持っていたため、ガードマンのお兄さんから、それを預けないと入れてくれないと言われた。(万引き予防なのかなあ) 3時半のシャトルバスで帰る。こちらは毎時30分発。シャトルバスは、ホテルの従業員や荷物も運んでいる。やっとチェックイン。広いベランダが付いていてなかなか良い部屋。ところがなかなか荷物が来ない。おそらく、この時間にチェックインが集中したと思われる。それにしてもプールで泳いでいる人もいるけれど、部屋のベランダにいと肌寒い位だ。

プールの向こうは地中海、その向こうはアフリカ。思えば遠くにきたもんだ。一生懸命焼いている人がいるけど、——焼きたくないのは日本人だけかしら。今日のバレンシアビール（緑色）はおいしい。



ホテル：グヴァダルピン・バヌス



左にスーパーマーケットの Super Sol が見える



ホテル グヴァダルピン・スパのブランド店、ロビー



マルベリャはコスタデルソルの真ん中にあり、高級リゾートマンションが立ち並ぶ



マルベリャの旧市街 リトグラフ美術館があり、ダリ、ピカソの絵があった

5 / 16 (水) 晴れ

マルベリャ→ジブラルタル→マルベリャ

バス

バス

9時のシャトルバスでスパへ行く。そこから、タクシーでマルベリャの中心街へ、なぜ、直接バスから、タクシーに乗らなかったかと言えば、スパはタクシー乗り場があるのと、ここからのほうが、街に近いから。時間があるので、歩いて坂を上っていくとすぐ小さな広場があり、Infoがあった。リト

グラフ美術館も迷路のような道だったが、案内があったので、すぐ見つかった。広い通りへ出て、バスステーションまで、歩こうとしたら、路線バスの停留所を発見。行く先を確認し、バスステーションまで、行くことができた。運転手さんがちゃんと教えてくれた。11時30分発の切符を買おうとしたら、10分前しか売らないと言う。仕方がないので、すぐそばにあるスーパーをのぞく。

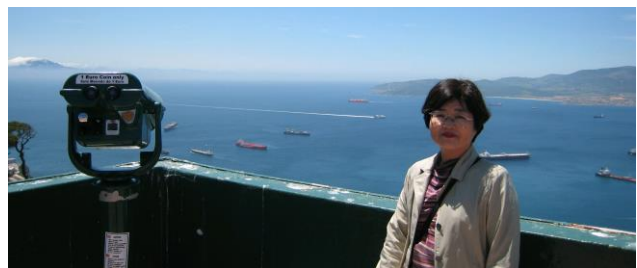


ターリックの山（標高：約450m）スペイン国旗のところが国境、向こうはイギリス領

バスは少し遅れてきた。ここが始発ではないようだ。1時間15分ほどで、la linea に到着。5分ほど歩き、国境へ。ジブラルタルはイギリス領なのだ。パスポートチェック2回。といっても見せるだけで、判を押したりはしない。ユーロをポンドに換えた。40ユーロが25ポンドぐらい。英本土のポンドとは違うようだ。10番のダブルデッカーで（あのイギリスの赤い2階建てバスです）中心へ。0.9ポンド。にぎやかな商店街を歩くこと。15分ぐらい。やっとロープウェイは見つかった。途中、お店の人に聞いてみたが、ロープウェイでは通じず、ケーブルカーと言っていた。日本ではケーブルといえば、線路の上を走る電車のイメージだが。我々が間違っているのかもしれない。行ってみると確かにケーブルカーと書いてあった。上に行き、地中海、アフリカを望む。絶景ポイントだ。



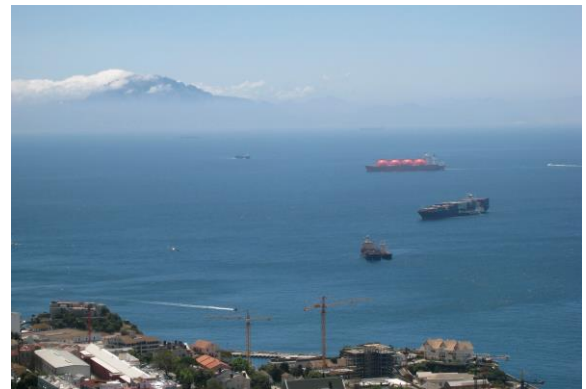
後ろはターリックの山



左にアフリカ モロッコの山波が見える



ロープウェイでターリックの山山頂付近まで登る，よく見るとゴンドラが見える



左下がジブラルタル，右上はアルヘシラスの町 ジブラルタル海峡，左の山はモロッコ（アフリカ）

ぐるっと回って降りる。商店街をまたぶらぶらしながら、バーガーキングで、ハンバーガーとポテトセット5，19ポンド。高いような気がする。量が多いので、1つを2人でちょうど良い。トイレは鍵を借りて入った。ドアを閉めると鍵がかかってしまう。（すぐそばにあるのだが。）途中で、アイスも食べた。これは1．5ポンド。来るときに降りたバス停を探すのが、行き過ぎてしまい。うろうろ探すことになった。やっとバスに乗り、国境を通過し、バスステーションに戻った。今度は1時間前でも切符は買えた。待っている間に日本人夫婦2人組のグループに出会う。なぜか日本人は分かるのです。Koreanでもなく Chineseでもなく。「スペイン列車の旅」の途中とか。セビリアから来たとのこと。ただ、なかなか適当な電車がなく、ここへもバスで来たとのこと。これから、頑張ってジブラルタルへ行くそうだ。ここでもまたまた情報交換。荷物をコインロッカーに預けていた。そうです。ここで初めてコイン

ロッカーを見ました。帰りは20時半発とか。Good Luck。どこまで行くのだろうか。

今度は時間通り La Linea を出発して、マルベリアへ、更にタクシーで、ホテルへ。無事到着。



ジブラルタルの町並み：赤いポストがある
(スペインの郵便ポストは黄色です)



ターリックの山が少し見える

5/17 (木)

今日はスペイン最後の日。

マルベリア→マラガ→パリ→成田

バス

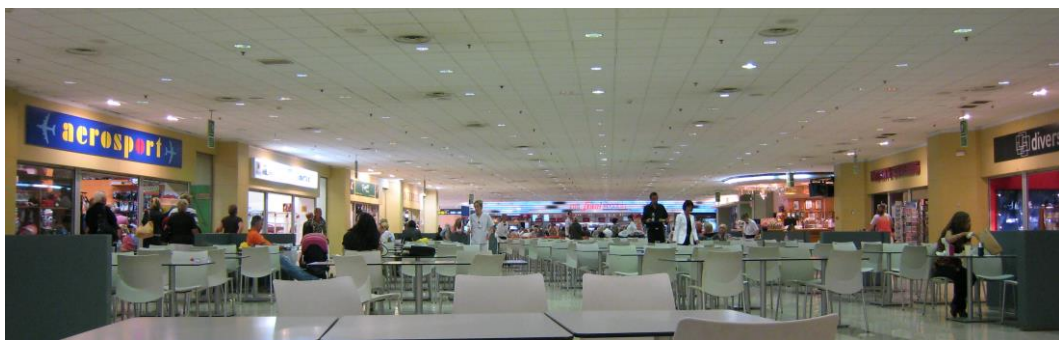
10時のシャトルバスで、スパへ。sol で買い物をして、11時ごろタクシーで、バヌスへ戻る。シャトルバスだとまだ時間があったので、そうしたのだが、道が違うなあと思っていたら、バヌスの港(プエルト・バヌス)で、降ろされそうになる。「バヌス」とだけ言ったので、ホテルのバヌスとはわからなかったようだ。「ホテルのバヌスだ」と盛んに文句を言っている。結局15ユーロも取られてしまった。12時のシャトルバスで、スパまで。そこからタクシーでバスステーションへ、昨日と同じ。4, 3ユーロ。このタクシーにはメーターは無く、何やらノートのようなものを見せて料金を取る。今度はバスがなかなか来ない。15分遅れでやっと到着。その間、なんのアナウンスもない。いらいらするのみ。45分でマラガ空港に到着。結構大きな空港で、お店も少しあった。昼食。さらにチェックインしてからの所には、tax free のお店もあった。予定の飛行機がなかなか案内されない。45分遅れで出発。ずいぶん待った。

パリでは、成田行きの搭乗口までかなり歩いた。ここで時間まで、ウィンドウショッピングしたりして待つ。23時25分発なので、「晩ご飯は出ない」と言う夫の言葉で、サンドイッチなどを買って、食べる。ところが、乗って1時間ほどして、晩ご飯となりました。あまり食べられませんでした。今度の席は、前は3人だが、我々は2人の席だったので、ゆったりとすわれた。H.I.S さんありがとう。また行きの時もそうだったが、エールフランスの席は少しゆったりしている。

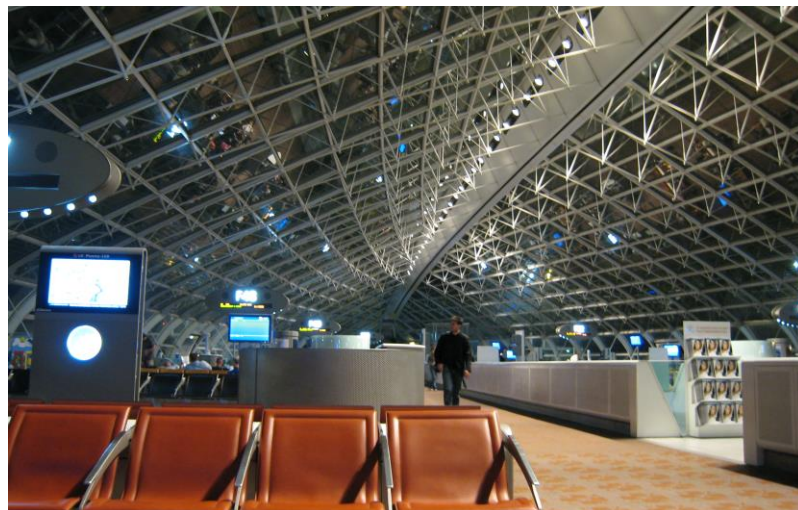
予定より30分早く18日17時半に成田到着。無事帰国しました。今回ははらはらどきどきとまではいかなかったが、緊張感はずっと続いていたような気がする。英語は通じないと心配していたが、なんとかなった。通じないときは誰かが必ず助けてくれた。 グラシラス アディオス END。



マラガ空港



マラガ空港待合室



パリ シャルルドゴール空港 出発ロビー

